

戦いの修羅を生きる

越境する アートと 個の身体、 そして演劇

Crossing Art, Individual Body and Theater

[日時] 2025年 **11月13日** (木) 17:30-19:30
[場所] 上智大学四谷キャンパス中央図書館821
[講師] 村田真一／河村晴久

越境する「演劇と身体性」

混迷の時代にあって、私たちの個の身体は何を伝えられるのだろうか。ロシア演劇の村田真一と能楽師、河村晴久との出会いは、日・露・ウクライナ文化を越境し、演劇というアートをとおして時空を超えた声なき声を伝え、私たち一人ひとりの身体の記憶と感情を揺さぶります。公演当日は、ギリシャ悲劇における「復讐」と、ウクライナでも演じられた、死後なお戦いの修羅を生きる義経の霊を描いた「屋島」をテーマに、一人ひとりの身体から、平和の意味を再考します。



村田真一 Shinichi Murata

上智大学名誉教授。ウクライナ国立ポルタヴァ教育大学及び古典私立大学名誉教授。国際スラヴィスト会議日本委員、日露演劇会議理事長、ウクライナ＝日本スラヴ学会会長。専門、スラヴ域の文学・演劇・文化。ロシア・ウクライナ・ポーランドなどの文学・演劇に関する論文を国際学会を中心に数多く発表。



河村晴久 Haruhisa Kawamura

昭和31年生まれ。幼少より父河村晴夫の教えを受け3歳にて初舞台。林喜右衛門師に師事。京都河村能舞台を中心に活動。演能活動とともに能の歴史を研究し、同志社大学大学院修了。神戸大学非常勤講師、京都市立芸術大学大学院非常勤講師、京都光華女子大学非常勤講師、近畿大学非常勤講師、同志社大学客員教授等を歴任。



[主催] 上智大学グローバル・コンサーン研究所

[共催] 上智大学ヨーロッパ研究所、上智大学基盤教育センター 身体知領域

[問い合わせ] 03-3238-3023 i-glocon@sophia.ac.jp

Sophia **Open** 11/5 wed - 11/24 mon
Research Weeks 2025



11月13日申し込み用



締切11/12 12:00／当日参加可／無料